

レトロスペクティブ —チームで思いを共有してモチ ベーションを向上する— (4)

オブジェクトモデリングスペシャリスト
土屋 正人

Masato Tsuchiya
m-tsuchi@sra.co.jp

3 回にわたって、レトロスペクティブの概要と、弊社・SRA が実施しているレトロスペクティブ(ふりかえり)の標準プログラム(図 1)から、認識の共有のアクティビティとして採用しているプロジェクトリーダーチャートと Keep&Change、投票を紹介しました。今回は、改善策の決定で行うアクティビティである、ブレインライティングを紹介します。

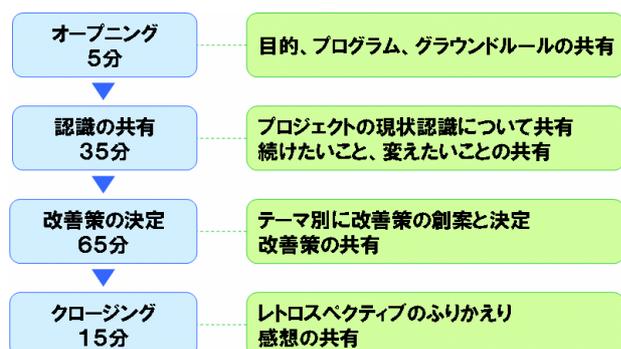


図 1 レトロスペクティブプログラム

◆ 改善策の決定

改善策の決定では、「ブレインライティング」というアクティビティを実施しています。これは「555(トリプルニックルズ)」として知られているアクティビティをアレンジしたものです。

やり方は、次の通りです。

◇ 準備

- チームを3~4人のグループに分ける
- グループ単位で机と椅子を用意し、座ってもらう(図2参照)
- A4用紙を各グループに改善対象数(3~4)枚配り、ひとり一枚持つ
- 参加者は手元の用紙の最上部に改善対象課題の名前をひとつ書く(グループ内で重ならないようにする)

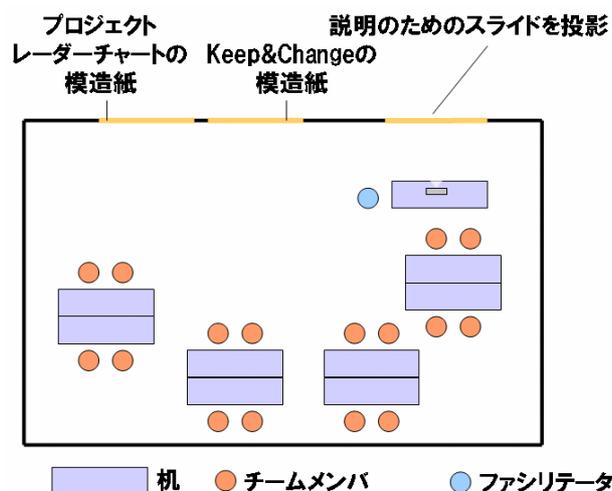


図 2 ブレインライティング (配置)

◇ 実施

- 4分間のタイムボックスで、自分が担当する課題の改善アイデアを用紙に3つ以上書き出す
- 4分経ったら、自分の用紙を左隣の人に回す
- 自分の手元には次の課題(前の人がアイデアを書き込んだもの)が回ってくるので、一読し、自分のアイデアを3つ以上追記する
- 紙が一巡するまで行う(以上、図3参照)

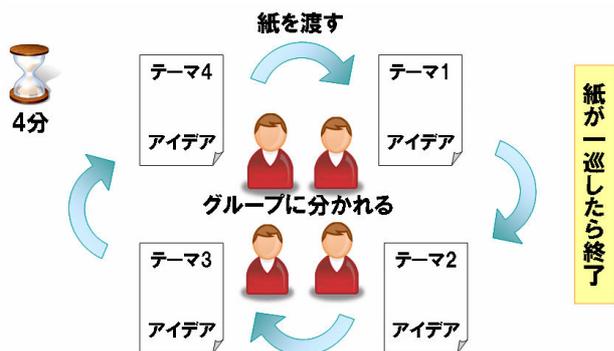


図 3 ブレインライティング（実施）

実施前に、用紙に折り目を入れて、アイデアを記述する升目を 2×6 行分用意してもらいます。実施中はプロジェクトでカウントダウンタイマを表示し、「残り何分」などというアナウンスを行っています。また、4 分間で最低 3 つのアイデア（実現可能性は少しだけ脇においてもらい）を出してもらっているのです。4 人グループで一巡すると、ひとつの課題に対して 12 個以上のアイデアが書かれることになります。3 つとはいえ、アイデアを出すことはハードワークですが、4 分間集中することで思った以上にアイデアが出てきます。

続いて、グループ単位でディスカッションを行い、各課題の用紙に書かれたアイデアの中から「これイイね！」と思えるアイデアを選んでもらいます。複数のアイデアをつなげることも、新たなアイデアを導くことも、もちろん OK です。

グループ単位で各課題の改善アイデアを決めたら、グループ毎に発表してもらいます。発表とそれに対する QA は、ホワイトボード上にマインドマップを使って議事を取っています（図 4）。

最後に、課題毎に実施する改善アイデアを、挙手による投票で決めます。

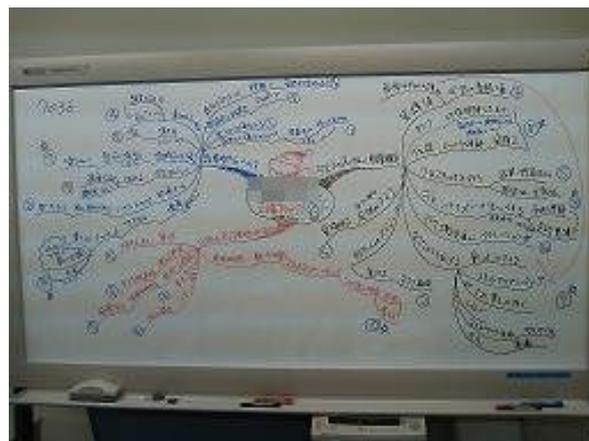


図 4 アイデアのマインドマップ

◆クロージング

レトロスペクティブの最後に、ひとり 1 分程度で、レトロスペクティブに対する感想を出してもらい、全員で共有します。改善点が見つかることが多いので、次のレトロスペクティブに活かすようにします。毎回必ずとっていいほど出る感想として、次のようなものがあります。

- 他の方が何を考えているか分かった
- 他の人も自分と同じことを考えていることが分かって安心した
- もっと早くこのような機会を設ければよかった

同じチームだから、いつもメールでやり取りしているから、ということで共有できているつもりでも、**思いや暗黙知は伝わりにくいもの**だと思います。**レトロスペクティブは、これらを共有し、気づきを得る場**となり、それがモチベーション向上につながると考えます。

◆終わりに

SRA で実施しているレトロスペクティブを 4 回にわたって紹介しました。少しでもお役に立てれば幸いです。

夢を。

GSLetterNeo Vol. 67
 2014 年 2 月 20 日発行
 発行者 ●株式会社 SRA 産業第 1 事業部
 編集者 ●土屋正人、柳田雅子

バックナンバーを公開しています ●<http://www.sra.co.jp/gsletter>
 ご感想・お問い合わせはこちらへお願いします ●gsneo@sra.co.jp



株式会社SRA

〒171-8513 東京都豊島区南池袋 2-3-2-8

夢を。Yawaraka Innovation
 やわらかいのバージョン